



# 青柳園だより

2023年

5月号

文京区立青柳幼稚園

## 戸外でたくさん遊ぼう

園長 和島 千佳子

春から初夏に向かって、園庭はだんだん緑が濃くなっています。園庭に続く第二校庭にも緑がいっぱいです。その園庭や第二校庭で、子どもたちは伸び伸びと遊びます。

手に持ったバケツの底いっぱいになりそうなほどダンゴムシを捕まえているお子さんもいれば、そのような友達の様子を見て、自分もやってみたくなり、初めて自分で手にのせてみたお子さんもいます。畑ではテントウムシを見つけて大喜び。ソラマメについたアブラムシを食べる様子に驚いて見入っています。



咲いている花が、肩から下げたポケット図鑑に載っているのと同じだということを見付け、嬉しそうに話してくれます。登園時におうちの方と離れがたくて表情が曇っていたお子さんも、心地よい風に吹かれながら陽の当たる場所で過ごし、友達の遊ぶ様子を見ているうち、自分のしたいことを見付けて動き出しています。草花を摘んでカップに入れ、いくつか並べているうちにお花屋さんを思い付いてお店が始まります。

少し先の校庭に、消防車が来ていた日、三輪車に乗って駆け寄った4歳児もも組。小学生が写生をしている様子を遠巻きに見ながら、感じたことや気付いたことを、そばにいる友達や先生と話しています。



砂場では、型抜きがうまくいくにはどうしたらよいか何度も試す姿や、車を走らせてできるタイヤの跡が面白いようで繰り返し走らせては振り返る姿があります。大きなシャベルを使うようになった5歳児ゆり組は、大きな穴や山を作っています。友達と一緒に作ると大きい山ができるね、トンネルもつくってつなげよう、と、遊びながら「こうしよう」というめあてが生まれています。

ピロティでは巧技台などの遊具を使って遊び、スロープを駆け上がる、細い道を渡る、ジャンプする、などの動きが引き出されています。園庭の滑り台までコースをつなげ、ぐるりと回り、繰り返し遊びます。楽しく遊んだ思いは翌日につながり、「今日もしようよ」と友達とコースを作り始める5歳児ゆり組の子どもたちです。



戸外で、友達や異年齢の子ども、草花、虫など、さまざまな人や物事に会いながら、心を動かされ、体が動き、遊びを楽しむ子どもたちです。その姿の中に、気づきや学びの芽がいっぱいです。

この環境を生かし、天気の良い日は積極的に戸外で遊びます。5月中旬からはもも組の園庭開放や、保護者の方の協力員を募っての土曜園庭開放も始まります。保護者の方もぜひ一緒に、戸外でお子さんと過ごすひとときを楽しんでください。